

全国各地から寄せられた投稿を紹介します。

レディースパワーで広報活動を盛り上げます！

岡山ライフガードレディースが発足

平成21年8月11日、岡山県漁業協同組合女性部による女性ライフジャケット着用推進員「おかやまライフガードレディース」が発足し、盛大な発足式が催されました。海上保安部や岡山県など関係機関から多数の来賓の方々が見守る中、岡山県水難救済会会長からの委嘱状交付、「おかやまライフガードレディース」代表奥野ミエ子岡山県漁協女性部連絡協議会会長による宣誓が行われました。

今後、岡山県では、この「おかやまライフガードレディース」が岡山県水難救済会とともに主体となって、女性の活力を存分に生かした“ライフジャケット着用率100%”を目指しての各種啓蒙活動を鋭意推進していくこととしており、これに、水島・玉野海上保安部、岡山県、岡山県漁協連合会の関係各機関等が支援・協力していくことになっています。

投稿：玉野海上保安部



「おかやまライフガードレディース」発足式



岡山県水難救済会 会長（黒田 晋 玉野市長）からの委嘱状手交

レスキュースレッド配備で救助体制を強化！

ボブズレスキューステーションが人命救助講習会を開催

ボブズレスキューステーションは、岡山県水難救済会の救難所として、岡山県沿岸海域における救助体制の強化を図ることを目的に、レスキュースレッドを配備していただきました。これに伴い、平成21年7月8日、(財)尾道海技学院日本海洋技術専門学校教頭の中田善方氏を講師に招き、水上オートバイによるレスキュースレッドを用いた人命救助講習会を開催しました。

講習会には、ボブズレスキューステーション及びオバタボート救難所の救助員7名のほか、岡山県警機動隊8名、水島、呉海上保安部職員7名も参加。水上オートバイの特性を生かした迅速且つ的確な救助方法を学び、同時に機関同士での連携も深めることができました。

投稿：株式会社オバタボート救難所



ボブズRSへのレスキュースレッド引渡し式



救難所救助員による救助訓練

INFORMATION

●助成金を受けて行う事業には助成団体を明示

本会及び地方組織が行う事業には、日本財団をはじめとする団体から助成金等の交付を受けて実施しているものがあります。ご承知のことと思いますが、海難救助訓練などがこれにあたります。

従って、看板や訓練資料、機材などを購入あるいは作成するに当たっては、これら助成金を受けている団体名を必ず表記するよう、改めてお願いします。

●日本水難救済会会員募集

日本水難救済会では、会員（2号正会員又は助成会員）となって本会の事業を支援していただける方々を募集しています。

2号正会員資格は、本会の事業目的に賛同して、年会費1口1万円（1口以上）を納付された方で、会員になりますと、総会に出席することにより当会事業に参画できます。

賛助会員は、金品を寄付することにより本会の事業に貢献いただくもので、寄付された方は、法人税・所得税の控除を受けられる特典があります。

希望される方は、当会に連絡いただければ、入会申込書をお送りしますので、必要事項を記入してお申し込み下さい。

編集後記

★本号から誌名をマリンレスキュージャーナルに改め、内容を全面刷新し、より親しみやすい誌面を目指しました。特に、人物に焦点をあて、できるだけ水難救済の現場の心意気が伝わるように心がけました。

★当会は今年で設立120周年を迎えました。日本水難救済会が辿ってきた道を探る歴史レポートをシリーズで掲載することとしました。金刀比羅宮学芸顧問の西牟田さんご協力ありがとうございました。

★今号から現場取材を敢行し、最前線に身を置く人々の素顔を追った「マリンレスキュー紀行」掲載しました。初回は伊豆地区水難救済会稲取救難所の皆さんにご協力をいただきました。今後全国各地の救難所をレポートしていきますので楽しみにしていただきたいと思います。取材は先入観のない目の方が新鮮な内容になるのではということで、専門の方にお願ひしました。エイアンドエー(株)秋山さん、金田さんのご協力で深謝します。金田さんは、稲取で金目鯛の味噌汁をいただき、そのおいしさの感動を「港グルメ」のコーナーにて伝えています。

★ホームページも活用して、情報を広く発信・共有していきますので、全国の皆様から現場の便りや写真等の情報提供をお願い致します。(常務理事 上岡)